

農福連携で労働力の確保

労働力不足を農福連携のマッチングで課題解決へ

○ 施策分類

農福連携

○ きっかけ・背景、課題の把握

拠点内の勉強会で、福島県授産事業振興会の講義を受け、各地域担当が、授産所や法人を訪ねた際に農福連携の情報を提供。

G Iに登録された昭和かすみ草の生産者を訪問した際に、労働力不足の話があったことから、農福連携の取組を紹介するとともに、福島県授産事業振興会、J A、普及所の協力を得て、令和6年度J A会津よつばかすみ草部会総会において、農福連携の説明会を開催。

○ 取組の内容

生産者2名による試行的雇用が実現。ある生産者は隣町の授産所から引率者を含め4名の派遣を受け入れた。もう1名の生産者においては社会福祉協議会との連携により村内の障害者1名が農作業に従事。各現場で収穫後の調製（枝かき）作業に取り組んだ。

○ 効果・成果、今後の方向性

労働力不足の解消を完全に解決するまでには至っていないが、一定程度取組の成果が得られた。来年度は次の総会で今年も含め農福連携について改めて説明するとともに、社会福祉協議会と連携し地元の就労機会のない方や働きたい高齢者も労働力として提案し、農業者の労働力の確保と障害者や高齢者の雇用拡大及び関係者の収入増加に貢献していきたいと考えている。



総会にて説明を行う福島県授産事業振興会の渡部コーディネーター



授産施設の皆さんの作業風景
一番奥の方は生産者

体制図

